

# 環境・社会報告書

# 2016

CSR REPORT

*Think the earth, Think the future*

地球の未来を  
育む企業へ

株式会社 クリーンセンター

福岡県北九州市門司区新門司3-67-9  
フリーダイヤル 0120-023-326  
TEL 093-481-4523 FAX 093-481-4529  
<http://www.clean-center.co.jp>

私たちは「リーグ キラヴァンツ北九州」を応援しています



株式会社 クリーンセンター



ひとりひとりの力で  
着実に未来を切り拓く

株式会社クリーンセンター 代表取締役  
酒田 雅央

株式会社クリーンセンターは、「社会への貢献」「地域との調和」の社是のもと、廃棄物処理を中心に事業を展開しております。廃棄物処理業界は大きく変わりました。適正に処理することこそが是とされた時代から3Rを模索する時代へ、そして低炭素化社会の構築にも寄与する時代を迎え、各種法律の改正や制定、処理技術の革新が進みました。

そのような時代の変遷の中、当社の使命として感じるのは、その時代の『最適』をお客様へ提供することです。リサイクル技術は進化を続け、現在では「リサイクルは必須」の時代になりました。一方、動脈産業における新技術や新製品開発の歴史は、同時に「新たな廃棄物」誕生の歴史でもあり、新技術を導入してもなおオートメーション化による処理が果たせないものもまた存在します。これらの処理が困難な一つ一つの廃棄物と正面から向き合い、手作業による前処理を惜しまず確実に堅実に最適な処理を行う、当社の廃棄物事業の軸はまずここにあると感じています。

新たな廃棄物誕生の場面では、新たな処理フローを創ることが大切であり、加えて、処理に際し同時に潜む危険を感知していくことも重要です。また、昨今の日本では廃棄物の不適正処理に関するニュースも耳にします。皆様に信頼して頂ける企業へと成長するために適正処理を行うことは勿論のこと、企業活動のあらゆる場面で、お取引先のバリューチェーンの一員であるとの自覚を持ち、成長の努力を怠らないことが重要であり、同時にステークホルダーの皆様との密接なコミュニケーションも必要不可欠だと考えています。目指す企業像に向けて、環境・地域・安全という3つの重点項目を掲げCSR活動を推進しています。

当社では『教育』をキーワードに様々な活動を強化してきました。大切にしているのは「人」です。廃棄物を取扱うのも「人」であり、地域との調和を実現するのも、また「人」です。人が育ち、社員一人一人が目の前にある様々な課題に気づき、自ら考え行動する力を身に着けることこそが、当社の企業としての成長であり、より良い未来への第一歩であると考えています。私たちは、事業活動そのものが社会インフラの一端を担っているということを確認した上で、地域の皆様と共に成長し、共に課題を解決できるような企業を目指します。今後も当社の事業が社会的課題解決の一助になれるよう邁進して参りますので、より一層のご指導ご鞭撻を賜れば幸いです。

**Contents**

会社概要／編集方針	1
トップメッセージ	2
KPI	3-4
環境への取り組み	5-7
環境方針／ 環境マネジメント体制	8
マテリアルバランス	9
環境データ	10
地域とのかかわり	11-12
安全へ向けて	13-14
事業内容	15-17
沿革	18

**社 是**  
社会への貢献  
地域との調和



●会社概要 Company Profile

商号	株式会社クリーンセンター
代表者	酒田 雅央
設立	1978年
資本金	1,000万円
従業員数	15名
所在地	福岡県北九州市門司区新門司3-67-9
加盟・参加団体	北九州商工会議所 公益社団法人 福岡県産業廃棄物協会 一般社団法人 処理施設技術管理者協会 一般社団法人 北九州防災協会 公益財団法人 北九州国際技術協力協会 九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ (K-RIP) 北九州環境ビジネス推進会 NPO法人 九州環境カウンセラー協会 ふくおか石膏ボードリサイクル研究会 公益社団法人 門司法人会

●編集方針 Editorial Policy

報告対象組織	株式会社クリーンセンター
報告対象期間	2015年4月～2016年3月 (※一部対象期間外を含む)
発行時期	2016年4月 (次回2017年4月発行予定)
参考ガイドライン	環境省「環境報告ガイドライン」(2012年版)
お問合せ先	株式会社クリーンセンター 担当:川野 〒800-0115 福岡県北九州市門司区新門司3-67-9 フリーダイヤル 0120-023-326 TEL 093-481-4523 FAX 093-481-4529 E-mail: marketing@clean-center.co.jp

環境・社会貢献活動のKPI (Key Performance Indicators: 重要業績評価指標) を策定しています。当社はKPIの管理・策定を定期的に行い、社会情勢に合わせた活動を推進していきます。

[評価基準] ◎: 目標達成 (120%以上) ○: 目標達成 (100%以上)  
 △: 取組実施・目標未達 ×: 取組未実施



昨年度より新たな3年間の目標設定を行いました。大きく「地球温暖化」、「資源の枯渇」、「地域社会とのコミュニケーション」、「安全な事業活動」に分け、それぞれに細分化された目標値と具体的な活動内容を取り決め、実施して来ましたが、その柱の一つとして設定した目標「地域社会とのコミュニケーション」は、CSR活動の中心であり、社員も積極的に関わることで結果に繋がっていると評価できます。また、「安全な事業活動」では予防活動を強化し、労働災害0件を達成することができました。一方、環境面では結果をきちんと分析し、取組内容を見直した上で、改めて目標達成に向けて邁進したいと思います。

2016年4月 代表取締役 酒田 雅央

重要課題	分類	KPI	取組内容	2015年度目標	2015年度結果	評価	2016年度目標	2017年度目標
地球温暖化	CO <sub>2</sub> 排出量削減	過去3年間の平均費削減割合	・車両運行時のエコドライブ実施 ・処理作業の効率化 ・照明のLED化 ・小まめな節電の実施	1%削減	11.9%削減	◎	2%削減	3%削減
	CO <sub>2</sub> 排出量削減	低燃費車導入率 (平成27年度基準低燃費車)	・車両更新時に随時導入 ・エコドライブ講習への参加	10%以上	11.1%	○	15%以上	18%以上
	有害物質の排出抑制	低排ガス車導入率 (平成17年度基準低排ガス重量車)	・車両更新時に随時導入 ・エコドライブ講習への参加	28%以上	38.8%	◎	30%以上	32%以上
資源の枯渇	グリーン購入促進	グリーン購入法適合製品比率	・適合文房具類の使用 ・適合作業服等の使用	30%	23.5%	△	40%	50%
	電子Manifestoの使用先拡大	新規取扱先獲得件数	・電子Manifestoの使用先確保 ・説明会(導入・操作)の実施 ・運用フォロー	新規取引先 5件獲得	6件獲得	◎	5件獲得	5件獲得
	最終処分量(埋立)の削減	過去3年間の平均比削減割合	・処理工程、処理作業の見直し ・各種手順書の見直し ・手順の教育・訓練	1%削減	11.1%増加	△	2%削減	3%削減
	廃プラスチックの マテリアルリサイクル	過去3年間の平均比向上割合	・選別精度の向上 ・処理工程、処理作業の見直し ・中間処理機能の強化 ・リサイクル先および手順書の見直し ・手順の教育・訓練	2%向上	8.1%減少	△	4%向上	6%向上
	廃油のリサイクル	過去3年間の平均比向上割合	・選別精度の向上 ・処理工程、処理作業の見直し ・リサイクル先及び手順書の見直し ・手順の教育・訓練	2%向上	4.8%向上	◎	4%向上	6%向上
地域社会との コミュニケーション	地域社会との対話	地域での活動実施回数	・こども茶会の継続開催 ・地域清掃活動実施 ・CSR教育の実施	5回以上	6回	◎	5回以上	5回以上
	企業情報の発信	情報公開の実施	・優良認定による情報公開実施 ・環境・社会報告書の発行	更新100%	更新100%	○	更新100%	更新100%
安全な 事業活動確保	労働災害防止	労働災害発生件数	・労働安全教育の実施 ・安全・環境パトロール実施 ・ヒヤリハット報告書の活用	0件	0件	○	0件	0件

STAFF  
環境ハッピー  
アクション

家庭菜園で根野菜の自給率目標100%



取締役  
岡崎 尚文

なるべくテレビをつけずに節電



取締役  
酒田 美智子



四季折々に表情を変える日本の自然を次世代に残していくために

STAFF  
環境ハッピー  
アクション

近い場所には健康を考  
えて車ではなくて歩く



業務Gr. 統括リーダー  
前田 信行

01 低炭素化社会の構築に向けて

環境未来都市の一つである北九州市は、環境基本計画の中に「世界にひろげる低炭素社会づくりの推進」を掲げおり、北九州市を中心に事業展開を行う当社にとっても重要だと捉え、環境活動指針の一つとしております。当社では『省エネルギー化』を中心に活動推進を行っています。

事務所のLED照明化

営業時間中は常に点灯している事務所照明をLED照明に更新しました。消費電力の削減はもちろん、蛍光灯に比べると色合いの劣化もなく、事務作業もはかどっています。

年間電力使用量

989 kWh削減

LED照明更新による年間電力削減量を当社試算



環境配慮型設備への更新

事業を行ううえで欠かせないのが一つ一つの設備です。安全に運搬を行う車両、適正な処理を行うために必要な重機や機械は当社の大切な仲間です。2015年度はいくつかの設備を『環境配慮型』というキーワードで更新し、燃費の向上に加え、低騒音や低排ガス等の環境負荷改善を実現しました。

6,800 kg-CO<sub>2</sub>削減  
2015年度比年間CO<sub>2</sub>削減量/当社試算



① 油圧ショベル

従来モデルより燃料消費量約20%低減の最新モデルを導入しました。また、低排ガス・低騒音の適合も受けており多方面の環境改善に繋がっています。



② 営業車両

営業車両としてハイブリッド車を導入し、大幅に燃費が向上しました。



③ 収集運搬車両

脱着装置付コンテナ専用車の1台を更新しました。平成27年度燃費基準達成車であり、大幅な省エネルギーに繋がっています。また、エコドライブの継続推進により、更なる燃費向上を見込んでいます。



番外編

圧縮設備も更新しました!

自動結束型の圧縮設備で処理能力・業務効率がUPしました!



## 02 環境に関する講演の実施



主軸である廃棄物分野の講演を積極的に実施しています。

その中の一つ、『優良産廃処理業者認定制度説明会』では、処理事業者を対象に本制度の概要や取得のポイントを説明しました。また、本制度の取得要件の一つである『電子マニフェスト』の操作体験セミナーは福岡県外でも開催させて頂きました。



計 **6** 回講演 2015年4月～2016年3月の合計講演回数

### ●講演実績

開催日	主催者	講演名
2015年 3月17日	公益社団法人 福岡県産業廃棄物協会	優良産廃処理業者認定制度・環境配慮契約法説明会
2015年 8月 7日	公益社団法人 福岡県産業廃棄物協会	優良産廃処理業者認定制度・環境配慮契約法説明会
2015年10月16日	一般社団法人 広島県産業廃棄物協会	電子マニフェスト操作体験セミナー
2015年10月21日	一般社団法人 佐賀県産業廃棄物協会	電子マニフェスト操作体験セミナー
2015年 2月 3日	公益社団法人 福岡県産業廃棄物協会	電子マニフェスト操作体験セミナー
2015年 3月17日	公益社団法人 福岡県産業廃棄物協会	優良産廃処理業者認定制度説明会

## 03 社内緑化活動



入口にある花壇には四季折々の花々を植えております。また、事務所入口に季節に合わせた花を置き、ご来社いただく皆様をお迎えしております。

ご来社いただく方々に晴れやかなひと時をご提供できるように今後も継続していきます。

## 04 定期的な地域清掃



周辺地域への恩返しのお気持ちを表す活動の一つとして近隣地域の清掃活動を実施しております。会社周辺道路は毎朝、近隣にある新門司公園の清掃活動も定期的に行っています。よく見るとたくさんのごみが落ちていることから、改めて環境について考える機会にもなっています。

## 基本理念

株式会社クリーンセンターは、産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬・処理、一般廃棄物収集運搬、船舶廃油処理、一般貨物運送事業の各業務を通じ、社是『社会への貢献』と『地域との調和』を実践するため事業活動を展開しています。

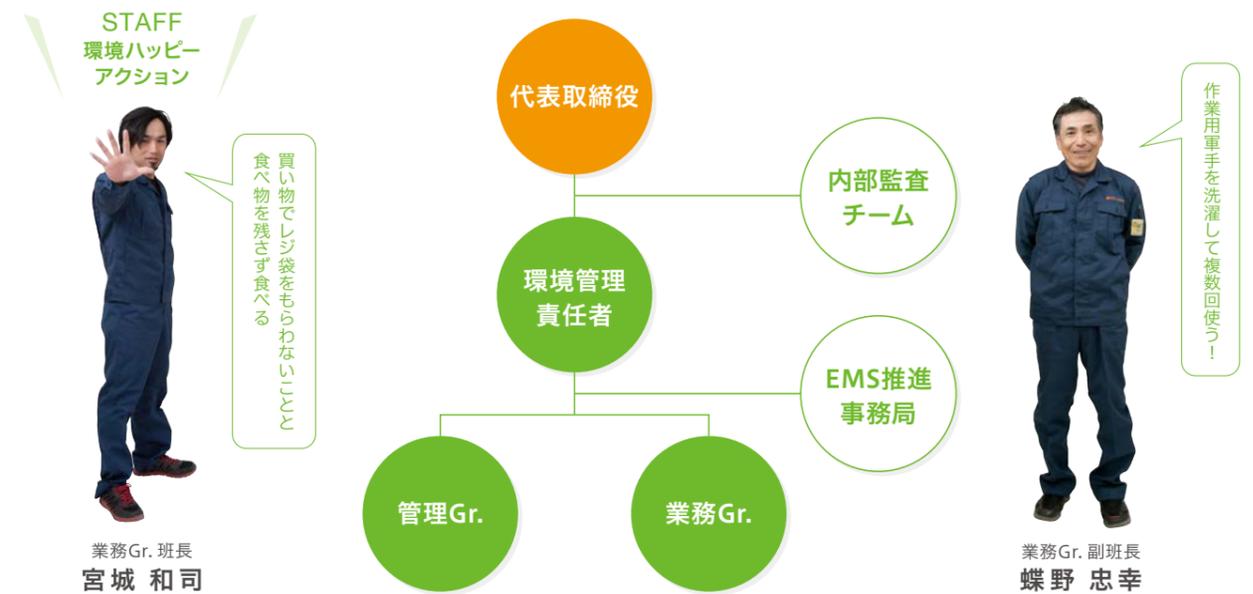
環境未来都市北九州で廃棄物を取り扱う企業として、地球環境と当社事業活動との深い関わりを認識し、豊かな自然との共存、地域社会との調和を目指し、北九州市が環境基本計画に掲げる「北九州市民環境力の継続的な発展」、「世界にひろげる低炭素社会づくりの推進」、「未来につなげる循環型社会づくりの推進」、「豊かさを支える生物多様性保全の推進と快適な生活環境の確保」の政策目標達成に寄与するとともに、環境マネジメント活動を推進することが経営の最重要課題の一つと位置づけ、以下の「活動指針」を定めます。

## 活動指針

1. 当社に関わる法規制及び当社が同意するその他要求事項を順守します。
2. 当社の事業活動が環境に与える影響を認識して、環境マネジメントシステムを推進し、継続的な改善を実施します。
3. 事業活動を通じて汚染の防止に努め、技術的・経済的に可能な限り3Rを推進し、最終処分量を削減、環境負荷の低減に努めます。
4. 技術的・経済的に可能な範囲で事業活動の省エネルギー化を推進し、低炭素化社会の構築へ寄与します。
5. 社員一人一人の環境意識・社会意識向上のための機会を設け、あらゆる場面で社員全員が『社会への貢献』『地域との調和』の精神を発揮できるよう努めます。

2015年3月1日  
株式会社クリーンセンター  
代表取締役 酒田 雅央

## 環境マネジメント体制 Environmental Management System





※1: 水とエネルギー起源のCO<sub>2</sub>排出量を対象とし、「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」にて掲載されている情報にて算定しております。  
 ※2: リサイクル率=サマールリサイクル量+マテリアルリサイクル量/総排出量

## 排ガス・焼却灰・飛灰測定結果

### ●ばい煙計測結果

測定年月日: 平成27年4月9日  
 測定場所・施設名: 焼却炉  
 焼却能力: 650kg/h

計量結果			
ばいじん	基準値	g/m <sup>3</sup>	0.25
	濃度	g/m <sup>3</sup>	0.0070>
	O <sub>2</sub> 換算濃度	g/m <sup>3</sup>	0.0058>
窒素酸化物	基準値	ppm	300
	濃度	ppm	49
	O <sub>2</sub> 換算濃度	ppm	40
硫黄酸化物	基準値	m <sup>3</sup> /h	0.47
	排出量	m <sup>3</sup> /h	0.0029>
	濃度	ppm	1>
塩化水素	基準値	mg/m <sup>3</sup>	700
	濃度	mg/m <sup>3</sup>	1.4
	O <sub>2</sub> 換算濃度	mg/m <sup>3</sup>	1.1
排ガス性状	水分	%	31.0
	排ガス流量(湿)	m <sup>3</sup> /h	4,330
	排ガス流量(乾)	m <sup>3</sup> /h	2,990



### ●排ガス試料測定結果

試料名	排ガス	
単位: ng-TEG/m <sup>3</sup>	(10 ng-TEG/m <sup>3</sup> )	
ダイオキシン類	ポリ塩化ジベンゾ パラジオキシン(PCDDs)	0.021
	ポリ塩化ジベンゾフラン(PCDFs)	0.038
	Total(PCDDs+PCDFs)	0.058
	DL-PCB	0.011
	Total ダイオキシン類	0.069
ばいじん (0.25g/m <sup>3</sup> )	濃度	g/m <sup>3</sup> 0.0070>
	O <sub>2</sub> 換算濃度	g/m <sup>3</sup> 0.0058>
	窒素酸化物 (300ppm)	濃度 ppm 41
硫黄酸化物 (0.46m <sup>3</sup> /h)	O <sub>2</sub> 換算濃度	ppm 34
	濃度	ppm 1>
塩化水素 (700mg/m <sup>3</sup> )	濃度	mg/m <sup>3</sup> 0.71
	O <sub>2</sub> 換算濃度	mg/m <sup>3</sup> 0.57
連続計器 (4時間平均値)	CO(実測値)	ppm 5>
	CO(12%換算値)	ppm 4>
	O <sub>2</sub>	vol% 10.6
排ガス濃度	℃	78

測定年月日: 平成27年10月15日  
 測定場所・施設名: 焼却炉  
 焼却能力: 650kg/h

計量結果			
ばいじん	基準値	g/m <sup>3</sup>	0.25
	濃度	g/m <sup>3</sup>	0.0070
	O <sub>2</sub> 換算濃度	g/m <sup>3</sup>	0.0058
窒素酸化物	基準値	ppm	300
	濃度	ppm	41
	O <sub>2</sub> 換算濃度	ppm	34
硫黄酸化物	基準値	m <sup>3</sup> /h	0.48
	排出量	m <sup>3</sup> /h	0.0024>
	濃度	ppm	1>
塩化水素	基準値	mg/m <sup>3</sup>	700
	濃度	mg/m <sup>3</sup>	0.71
	O <sub>2</sub> 換算濃度	mg/m <sup>3</sup>	0.57
排ガス性状	O <sub>2</sub> 計濃度	%	10.6
	温度	℃	(78) 78
	平均流速	m/s	6.1
	水分	%	48.8
	排ガス流量(湿)	m <sup>3</sup> /h	4,780
	排ガス流量(乾)	m <sup>3</sup> /h	2,440
一酸化炭素	基準値	ppm	-
	濃度	ppm	5>
O <sub>2</sub> 換算濃度	ppm	4>	

### ●焼却灰・飛灰試料測定結果

試料名	焼却灰	飛灰	
単位: ng-TEG/g-dry	(3 ng-TEG/g-dry)		
ダイオキシン類	ポリ塩化ジベンゾ パラジオキシン (PCDDs)	0.0000027	0.0014
	ポリ塩化ジベンゾ フラン(PCDFs)	0.000070	0.0018
	Total (PCDDs+PCDFs)	0.000073	0.0033
	DL-PCB	0.00000011	0.00031
	Total ダイオキシン類	0.000073	0.0036



STAFF  
環境ハッピー  
アクション

食材は必要な分だけ買い、  
捨てずに全部食べ切る



業務Gr.  
赤金 靖彦

エコドライブの徹底追及



業務Gr.  
渡邊 智哉

トップメッセージ  
KPI  
環境への取り組み  
環境マネジメント体制  
環境方針  
マテリアルバランス  
環境データ  
地域とのかかわり  
安全へ向けて  
事業内容  
沿革



ひとりひとりのコミュニケーションから、地域との調和を目指すために

## 01 コミュニケーション向上のために

お客様、協力会社様、地域の皆様など、当社には多くのステークホルダーの方々が存在致します。関わりのあるすべての皆様が当社にとって欠かせない存在であり、皆様のお役にたてるよう日々邁進することが持続可能な社会づくりに繋がると考えています。そのためには、社員は「環境のプロ」としてステークホルダーの皆様と接し情報を提供することが重要です。幅広い知見を持った人材を育むために各種検定試験の受験を推進しています。

### ●北九州市環境首都検定



北九州市  
環境首都検定

合格者 **11** 名 2016年  
4月時点

第一ステップとして本検定の『一般編』を社員全員がチャレンジしています。今では約半数の社員が合格しており、合格者社員が講師を行い会社一丸となって取り組んでいます。

### ●新CSR検定



新  
CSR  
検定

合格者 **4** 名 2016年  
4月時点

第二ステップとして2015年から始まったのが『新CSR検定3級』の受験です。経済・環境・社会と3つの側面から企業活動を考えていくCSRはとても重要な考え方です。北九州市環境首都検定合格者がチャレンジしています。

## 02 こども茶会の開催



日本の古き良き文化を、未来を担う子どもたちに体験して頂きたいという願いを込めて、2010年より地域の幼稚園児のみなさんをお招きし、「こども茶会」を開催しています。

毎年交代で社員が参加し、運営の手伝いを行っています。2015年は、24名もの子どもたちに参加頂きました。当社と地域との関わりを肌で感じ、社会における当社の意義をひとりひとりが考えるきっかけとなっています。

計 **6** 回開催 ~2016年3月までの開催数

STAFF  
環境ハッピー  
アクション

家で使った紙類は決められたリサイクルへ

## 03 地域イベントでのボランティア



当社周辺地域の小学校で開催されるイベントのゴミを回収するボランティアを行っています。2015年度は2つの小学校のバザーで発生したゴミを回収しました。小学生をはじめ、保護者の方々からも「ありがとう」という声を頂き、地域の皆様と直に触れ合うことができる貴重な機会となっております。

私たちの主業務を通して社会に貢献できることの喜びと誇りを肌で感じています。



業務Gr. 副班長  
飯水 栄二

## 04 チャイルドスポンサーシップ

2006年より、特定非営利法人 ワールド・ビジョン・ジャパンが実施している「チャイルド・スポンサーシップ」に参加しています。この活動は、子どもたちに喜びや学習の機会をもたらすことで可能性のある将来を創造することを目的としており、ひとりの子どもと繋がり定期的な寄付を通じて途上国の子どもたちを取り巻く環境を改善する支援を行っていくものです。

当社ではエチオピアの イェザヌちゃん を支援しており、年に1回彼女から届く手紙や写真から感じる彼女の成長は社員全員の楽しみになっています。今年は千代紙や九州の絵ハガキなどを送ってコミュニケーションを図り、同時に日本文化について紹介しました。



休みの日に子供たちと外で運動



管理Gr. 業務Gr. 兼任  
川野 秀樹



安全はステークホルダーの笑顔を生み、持続可能な社会への近道となる

STAFF  
環境ハッピー  
アクション

使い捨ての物はなるべく使わない



業務Gr. 班長  
芳村 大輔

01 安全教育

無事故・無災害を一番の目標としている当社では、事故や災害から学び事前に防ぐことが重要だと考えています。自らの業務に向き合い深く考え、予防の強化から安心の創造を目指します。



〔 運搬部門 〕

ドライブレコーダー事例から学ぶ

車両に大きな衝撃が加わった前後十数秒の時刻、位置、前方映像、加速度、ウィンカー操作、ブレーキ操作等を記録する車載カメラ装置「ドライブレコーダー」の実際の動画を題材に危険予知トレーニングを定期的に行いました。事故発生前の映像から、何が起こる可能性があるか、どういう危険が潜んでいるかを自ら考えることで、運搬業務時の危険予知の良いシミュレーションとなっております。

〔 中間処理部門 〕

廃棄物の適正な取扱い教育



産業廃棄物には様々な種類があり、それぞれの特徴や危険性もきちんと理解することが重要であることから、適正な取扱い方法を事故事例から学ぶ社内教育を実施しました。

今回は特に危険性の高い、廃酸・廃アルカリ、廃油、汚泥の収集運搬時の事故事例を取り上げました。成分が混ざりあうと発熱や有毒なガスが発生するケースがあることから、廃棄物を収集する際に最も注意する必要があります。

様々な事例から潜在的な危険を再度認識することで、事前準備や実際の処理段階での危険予知・予防活動に繋がっています。

〔 運搬&中間処理部門 〕

ヒヤリ・ハット事例から学ぶ



工場内での災害や車両運行時の事故などを未然に防ぐことを目的に、ヒヤリ・ハット※活動を継続して行っています。日常業務中に起こったヒヤリとしたこと・ハットしたことを記載した報告書は社員全員が毎週提出し、よくあるケースと想定されるものは他部門に共有しています。

全社的な取り組みが安全意識の向上につながる近道だと考え、これから一丸となって活動推進していきます。

ヒヤリ・ハット  
報告書

133件

2015年4月～2016年3月で集計

※ヒヤリ・ハット：ヒヤリしたり、ハットするなど、事故が起ころうであったが、幸いにも回避できた出来事のこと。

STAFF  
環境ハッピー  
アクション

買い物のとき、必ずエコバッグを使う



業務Gr. 副班長  
西田 敬



02 安全・環境パトロールの実施



工場内の安全パトロールを毎週実施しています。安全の確保と同時に5Sの観点から場内美化や業務効率の観点からもチェックを行い、危険と無駄を排除し改善へと繋がっています。

03 車両へのバックモニター設置



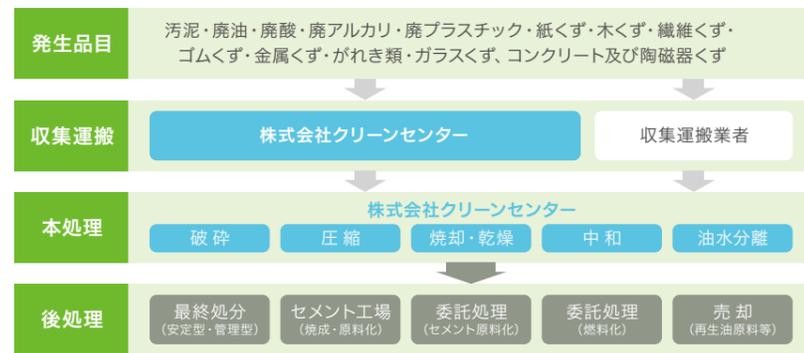
大型車両を中心にバックモニターを設置し、死角による事故防止に貢献しています。

## 01 廃棄物事業

### 環境配慮型設備への更新

廃油・汚泥・廃酸・廃アルカリなどの工業系廃棄物、廃石膏ボード・木くず・がれき類・廃プラスチック類などの建設系廃棄物・固形廃棄物について、産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の区分を問わず幅広い種類の廃棄物の処理を行っています。また、アルカリ蓄電池、グラスウール（断熱材）、廃塗料類、クリーニング廃棄物、混合廃棄物などの処理困難物や小ロットで発生する廃棄物についても対応可能です。

#### 〈廃棄物処理フロー〉



**処理設備**  
 ● 焼却設備 ● 油水分離設備  
 ● 中和設備 ● 乾燥設備  
 ● 破碎設備 ● 圧縮設備

#### 産業廃棄物処分許可品目／計12品目

- 汚泥 ■ 廃油 ■ 廃酸 ■ 廃アルカリ ■ 廃プラスチック
- 紙くず ■ 木くず ■ 繊維くず ■ ゴムくず ■ 金属くず
- がれき類 ■ ガラスくず、コンクリート及び陶磁器くず

#### 特別管理産業廃棄物処分許可品目／計3品目

- 廃油 (揮発油類,有害金属を含む特定産業廃棄物)
- 廃酸 (腐食性,有害金属を含む特定産業廃棄物)
- 廃アルカリ (揮発油類,有害金属を含む特定産業廃棄物)

### 廃棄物収集運搬業

廃棄物の様々な種類・性状・荷姿に対応できるよう、各種車両を保有しています。収集エリアも中国地方から北部九州まで広域での対応が可能です。また、北九州市の一般廃棄物収集運搬も行っております。

#### 運搬車両／計18台

- 脱着装置付コンテナ専用車 ……3台
- ダンプ ……1台
- キャブオーバ(クレーン付、パワーゲート) ……5台
- タンク車 ……4台
- 強力吸引車 ……3台
- パッカー車 ……2台

#### 産業廃棄物収集運搬許可品目／計18品目 (一部地域を除く)

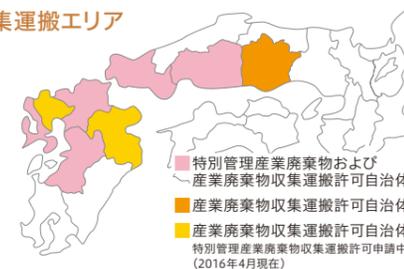
- 燃え殻 ■ 汚泥 ■ 廃油 ■ 廃アルカリ ■ 廃プラスチック
- 紙くず ■ 木くず ■ 繊維くず ■ 動植物性残渣 ■ ゴムくず
- 金属くず ■ 鉱さい ■ ばいじん ■ がれき類 ■ 動物の糞尿
- 動物の死体 ■ 13号廃棄物 ■ ガラスくず、コンクリート及び陶磁器くず

#### 特別管理産業廃棄物収集運搬許可／計8品目 (一部地域を除く)

- 廃油 (揮発油類,有害金属を含む特定産業廃棄物)
- 廃酸 (腐食性,有害金属を含む特定産業廃棄物)
- 廃アルカリ (揮発油類,有害金属を含む特定産業廃棄物)
- 鉱さい (有害金属を含む特定産業廃棄物)
- ばいじん (有害金属を含む特定産業廃棄物)
- 燃え殻 (有害金属を含む特定産業廃棄物)
- 汚泥 (有害金属を含む特定産業廃棄物)
- 廃石綿等



#### 収集運搬エリア



## 02 リサイクル事業

処理方法、処理工程を改善した当社オリジナルのリサイクルフローの構築により、常に高いリサイクル率の達成を目指しています。特に廃石膏ボードについては、九州工業大学・福岡大学との産学連携を図り、北九州市環境未来技術開発助成事業により100%再資源化を目指した実証実験を数年にわたり実施しました。



木くず破碎設備



廃油油水分離設備

STAFF  
環境ハッピー  
アクション

コンビニなどで割り箸  
をもらわない



業務Gr.  
田中 匠

### 廃石膏ボードの再生

国内でも大型の処理能力を持った設備にて、建築工事・解体工事から発生する廃石膏ボードの100%リサイクルを目指しています。石膏ボードは分別することでリサイクル可能になり、環境対策にも貢献できます。

#### これまでのあゆみ

2002年	廃石膏ボード専用リサイクル設備導入
2004~2005年	九州工業大学との共同研究を実施し、特許申請
2009年	産学連携でふくおか石膏ボードリサイクル研究会を数社共同で立ち上げ
2009年~現在	福岡大学との共同研究を実施 北九州市環境未来技術開発助成事業により実証実験を実施
2013年	福岡県リサイクル製品認定制度による認定資材

買い物など、簡易包装  
にしてもらう



管理Gr. 班長  
柴田 かおり



処理能力：94m<sup>3</sup>/8h  
 熱効減量値：1%前後(メーカーカタログ値)

### 03 洗浄・化学洗浄事業

#### ●洗浄事業



粉体封入のタンクは、専用のサイクロン式集じん機を使用した洗浄作業を行います。

#### ●化学洗浄事業

薬品タンクから側溝清掃まで、目的に応じて施工致します。



##### 施工例

- 油水分離槽の清掃
- 油種変更のためのタンク清掃
- 非破壊検査
- 暗渠の目詰まり
- 消防検査対応

#### ●船舶廃油処理事業

船舶において生じた廃油は海洋汚染の防止のため排出が原則禁止されており、受入処理を行うためには適切な計画を有し廃油処理施設が国土交通省令で定める技術基準に適合する必要があります。当社は国土交通省より許可を受け、国内外各種船舶の廃油の収集・処理を行っております。また、外国船舶の場合には必要な通関手続きも実施致します。

船舶廃油の種類	ビルジ	船舶の機関室区域などから漏出した燃料油、潤滑油等が船底に流入し、海水等と混ざって油性混合物となったもの
	バラスト水	船舶の航行の安全をはかるため、貨物櫃、二重底等に積載した水に油が混入した油性汚水
	タンク洗浄水	貨物油艙・燃料油槽及び潤滑油槽を洗浄する際に発生する油性汚水
	コレクトオイル	ビルジを油水分離器により船内で処理したあとの油性混合物
	スロップオイル	外航タンカーのタンク洗浄水及び水バラストを静置又は重力分離等の方法によって船内で処理したあと、船内に貯留される油性汚水
	スラッジ	貨物油艙・燃料油槽及び潤滑油槽の底に沈殿する固形物並びに燃料油、潤滑油の清掃の際に発生する油性固形物

【許可番号】  
九運海船第72号

【主な外国船舶対応実績】  
・KDDI PACIFIC LINK  
・SVED BORG  
・M/V ASIA ACE  
・ASIANA BREEZE  
・STELLA ELTANIN など



特殊吸引車

### 04 環境コンサル事業

#### ●太陽光発電事業

リサイクル施設の屋根にて太陽光発電を実施しております。

出力：30.9kWh 推定発電電力：32,629kWh/年  
CO<sub>2</sub>排出削減量：20.0t-CO<sub>2</sub>/年※

※温対法にて公表されている当該年度の排出係数(九州電力)にて算出  
(パネル設置や設備維持管理に伴って排出されるCO<sub>2</sub>は含みません)



#### ●環境アシスト事業

貴社の環境・廃棄物分野の目指すべきゴールに向けて、豊富な経験と環境関連資格を保有している『環境アシスタント』がアシスト致します。電子マニフェスト導入や廃棄物管理に関するご相談など、お気軽にお問合せください。

##### アシスト内容例

- 電子マニフェスト
- 廃棄物の基礎知識
- 廃棄物関連法規
- ゴミの減量化 など

##### アシスト実績(電子マニフェスト関連の場合)

- 鉄鋼メーカー
- 機械メーカー
- 精密機械メーカー
- プラントエンジニアリング企業 など

#### ●脱臭剤

臭気の原因を分析し、最適な脱臭材をご提案・販売しています。オーダーメイドも可能です。

##### 対応可能臭気例

- 有機酸
- メルカプタン
- 硫化水素
- アンモニア
- アミン など

- 1971 個人創業
- 1972 タンク塔槽化学洗浄事業開始
- 1978 株式会社クリーンセンター 設立。資本金 4,000千円  
ロータリーキルン式焼却炉設置  
産業廃棄物処分業許可取得
- 1981 燃料系リサイクル事業開始
- 1983 廃プラスチック類処理設備設置
- 1988 廃酸・廃アルカリ処理設備設置
- 1989 環境関連資機材開発販売事業開始
- 1992 産業廃棄物収集運搬業許可取得  
大型破碎設備設置  
資本金 10,000千円に増資  
特別管理産業廃棄物収集運搬・処分業許可取得
- 1993 厚生労働省より「厚生省生活衛生局長感謝状」を受賞
- 1996 破碎設備(移動式)設置  
(社)全国産業廃棄物連合会より「地方優良事業所表彰」を受賞  
一般貨物自動車運送事業許可取得 事業開始
- 1998 (社)全国産業廃棄物連合会より「功労者表彰」を受賞  
「福岡県知事表彰」を受賞
- 1999 廃プラスチック類 リサイクル原料事業開始
- 2000 北九州市より「平成11年度産業廃棄物処分業優良業者」を受賞
- 2002 廃石膏ボードリサイクル設備設置
- 2003 船舶廃油処理事業許可取得
- 2004 環境省より「環境大臣地域環境保全功労者表彰」を受賞
- 2005 北九州市より「平成16年度産業廃棄物処分業優良業者」を受賞 継続表彰  
圧縮設備設置
- 2006 油水分離設備設置  
ISO14001:2004(JISQ14001:2004) 認証取得  
優良性評価制度基準適合(北九州市・特管収運)福岡県内第1号  
チャイルドスポンサーシップに参加(現在も継続中)
- 2007 優良性評価制度基準適合 北九州市処分業者第1号  
(北九州市・中間処理/福岡市・特管収運/北九州市・収運)
- 2008 優良性評価制度基準適合  
(福岡県・特管収運/北九州市・特管中間処理/佐賀県・収運/福岡県・収運/久留米市・収運/  
佐世保市・収運/長崎市・収運)
- 2009 (社)全国産業廃棄物連合会より「優良事業所表彰」を受賞  
ISO14001:2004(JISQ14001:2004)更新 認証取得  
産学官連携「ふくおか石膏ボードリサイクル研究会」設立  
優良性評価制度基準適合(長崎県・収運/佐賀県・収運/大分県・収運/大分市・収運)  
木くず破碎設備追加設置
- 2010 北九州市より「平成21年度産業廃棄物処分業優良業者」を受賞 継続表彰  
優良性評価制度基準適合(福岡市・収運)  
第1回こども茶会開催(以後毎年1回開催)
- 2013 太陽光発電事業開始(30.9kW)
- 2014 (公社)全国産業廃棄物連合会より「功労者表彰」を受賞
- 2015 北九州市「産業廃棄物排出事業者・処理業者認定制度」に基づく審査において  
「北九州市認定産業廃棄物処理業者」として認定
- 2016 圧縮設備更新

STAFF  
環境ハッピー  
アクション

買い物にバイクを使わず歩く



業務Gr.  
杉本 圭一

水の使用を最小限にする



業務Gr.  
明石 裕樹